

# ホネホネ団通信

題字：中条武司 専属ドライバー

## 急集 緊持 ホネホネ団★3大巨星 海猿 大猿 熊を剥く！！

### オランウータンを剥く！

4月3日(土)、天王寺動物園で飼育されていたオランウータン(名前：ブル、オス三七歳)が死亡し、病理解剖ののちに自然史博物館に寄贈されるという情報が届いた。まさにホネホネ団史上最強の死体！(注1) それもでっかい類人猿！激レア！興奮した団員たち4名は、急遽博物館へ集結した。

オランウータンのようなでかい霊長類は、国内でも数十頭しか飼われていない貴重なもの。遺体は研究のため最大限利用される。そのため、ホネホネ団員がご対面したのはすてにお腹をひらかれ、頭蓋をばかっと開けられ、内臓や脳を抜かれたウータン君であった。はじめて近くで見ると(注2) ウータン君に、血圧は上がり、心臓はドドドドドドと鳴る。でかい手、みじかい脚、オレンジがかった長くてわりとまばらな体毛。そしてあの、顔のダフダフ。…すごい！

ウータン君は、神経や筋肉のつくりを観察するため、わざわざ東京からやってきた研究者の手によって、組織を壊さないよう慎重に剥かれていた。団員四名はそのわきで手足の先などをお手伝いさせていただく。

ふだん、「あーもう、肉なんか邪魔邪魔！」と、骨以外の部分をバサバサ切り裂いているホネホネ団としては、

何かと学ぶところが大きかった。こういうのを大切にしている人もいるのである。

さて肝心のウータン君は、大きい凶体のわりに皮膚は良く伸びるし薄いし、脂肪の層はとろとろとやわらかいし、あまり剥きやすいとはいえないなかった。さらにブタオザルの新生児を剥いたときにも感じたことだが、サルの類の脂はなんともいえない甘ったるいようなにおいがして、ずっと嗅いでいるとうんざりしてしまう。結局、夜8時から朝の5時までかかって、巨大類人猿の皮むきは終わった。

注1：ホネホネ団的には最大。ただ、和田団員はやめ池遊園地のソウを剥いた事がある。  
注2：団長の小さい頃の夢はあくらをかいたオランウータンの膝の上に座り、あの顔のダフダフをそととまむというものだった。この日その夢がややかかった。→しかしこれ以上望むのは贅沢と言うものだろう。



### ホッキョクグマを剥く！

オランウータンの興奮も、また後処理も冷めやらぬ5月2日(日)の朝。天王寺動物園で飼育されていたホッキョクグマ(名前：ユキコ、メス二四歳)が老衰のため死亡し、あまりの大きさに動物園の冷凍庫に入らないため、博物館にいくことが決まった。奇しくもこの日はホネホネ団の活動日であり、マングース、イタチ、ハクビシンの食肉目三科を比較しながら剥くことになっていた。

博物館にやってきたとたん、剥くのが「白熊」になったことを知らされた団員たちは大興奮。同じ食肉目でもえらい違いである。

ユキコはメスで体重二八〇キロ。5月8日朝日新聞の記事によると、一歳のときにアメリカからやってきたらしい。一生のうち4頭ものこどもを生み、本州では初の繁殖例となった。動物園の出版した

『…立派な雄で、両方のほっぺたにまるで耳のようなふくらみがあります。皮を剥くと、その中には堅い脂肪の固まりのようなものが入っています。後頭部にも脂肪の固まりが付いていて、頭は大きいけど頭骨はとても小さい。手のひらと足のひらはとても大きく、指紋や掌紋がついていて、人間に似ています。でも爪は巻き爪で、色は黒。あと、後ろ足の親指には爪がありません。という具合で、近くで見ると、あらためて色々な発見がありました。』

和田団員のHP「皮むき日記」より抜粋

パンフレットには、こどもと遊ぶユキコの様子がおさめられている。

スタンレスの調理台2台を連結した、急ごしらえの解剖台でホネホネ団の十一人が奮闘。脅威の集中力は1時間半で巨熊の解剖を終わらせた。

死体が新鮮すぎたにおいはまったくなく、体内はまだ暖かかった。かじかんだ手をユキコのおなかで温めながら、慣れた手つきで皮を剥く団員たち。その中には、小学生や中学生もいる。おそろおそろ今まで剥いたものを聞いてみたら、「タヌキと、イタチと、このシロクマ」という答えが返ってきた。

人生の皮むき歴、3例目にしていきなりこんな大物剥いちやつていいのか。普通ネズミとかから始めるんじゃないのか。それでいいのかホネホネ団。…まあ死体に出会うのは運だけど、それにしたつてすごいぞ。

ユキコのアーチ状になった黒い肉球をそととまでながら、物思いにふける団長であった。



ホッキョクグマを囲んで記念撮影をするメンバー。

ホッキョクグマの計測値：頭胴長 2100mm、尾長 60mm、後肢長 221mm、耳長 110mm。ちなみに腿回りは 830mm。

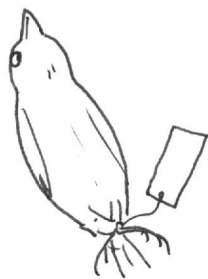




○活動報告○

活動報告 2004(3/26~6/12)

- 3/26 タヌキ(4)・ニホンジカ(4)
  - 4/2 ウサギ(2)
  - 4/3-4 オラウータン **大木の伝説①**
  - 4/11 テン・イタチ(4)
  - 4/17 シマウマ・カケス・ヒレンジャク・シロハラ・ツグミ(2)
  - 5/1 アカショウビン・ジョウビタキ・ヒバリ・キジバト
  - 5/2 ホッキョクグマ **大木の伝説②**
  - 5/4 タヌキ(お腹の中から9匹の胎児！)
  - 5/7 マイルカ **大木の伝説③**
  - 5/29 キョン母子(2)、ニホンジカ頭(3)
  - 5/30 ツキノワグマ新生児・ニホンジカ胎児・オオリス  
タヌキ新生児(5)
  - 6/12 ツミ・トラツグミ・ゴイサギ
- 合計 哺乳類(34点)鳥類(11点)



「うえだぬき」

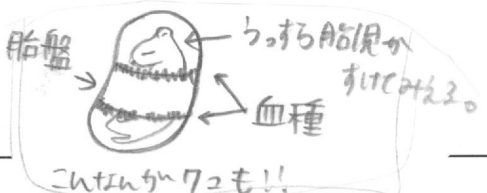
ここにホネホネ団の鏡とも言える、団員の偉業(言い過ぎ?)を紹介いたします。横でザンゲしてるけど~♪

あれは忘れもしない、ホッキョクグマを剥いた翌日のことです。連日、大物の処理が続き、テンションこそ高いもののみんな疲れておりました。そんなホネホネ活動の帰り道、■■■■団員(若干14歳♀)は道路の真ん中で死んでいたタヌキを発見。車をかわしながら拾い上げ、ビニール袋など持っていなかったのですが、男前にも血の滴るタヌキを自転車の前籠に乗せ、通行人に怪しい目で見られながらも家に帰ったのであります。

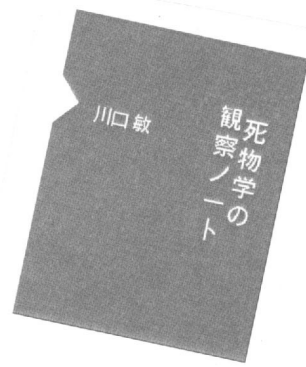
その時、■■田団員脳裏に「もしかしたらこのタヌキ…」と、一つの疑問が浮かび上がっていました。

その謎を解明するべく、解剖した団員の目に飛び込んできたものは、出るわ出るわ!なんと9匹の胎児でした。お腹が大きく、乳首が目立っていたので妊娠しているのではないかと、■■田団員の推測はみごとの中!死後、腐敗が進むとお腹にガスが溜まり膨張する事がよくあるので見過ごしがち。骨や皮だけにとどまらず、もっと内蔵にも目を向けなきゃねっと反省する団員達でありました。

タヌキの胎児は一匹一匹薄い膜に覆われ、その上を帯状の胎盤と血腫に巻かれていました。それを破り胎児を外に出すと、へそのおで胎盤とつながっていました(下の図)。7、8cmほどのミニタヌキにはまだ体毛もなく、目も耳も塞がっているのに、爪や肉球は形が整っていてなんとかわいいかったです。(■譯)



▼著者は、哺乳類の死体マニア。死体があると聞けば大喜びで飛んで行って、写真撮って拾って、持ち帰ったら測定して、皮を剥いて標本に。そう、まさにホネホネ団と同じ事をしてる。



団員おすすめの一冊を紹介します  
ホネの本棚②  
「死体学の観察ノート」  
身近な哺乳類のプロファイリング  
川口敏、PHP新書、01年6月、  
ISBN4-569-61668-2 660円+税

香川県で活動してるそうなので、琉球支部に続いて「なほホネホネ団讃岐支部」を立ち上げてもらったらしいに違いない。▼そんな著者が、自分で集めた標本を元にいろんな話題を提供してくれる。食肉類の顔の模様、ネズミやモグラの腹の色、イタチ類の大きさと分布、ネズミ・モグラ・ウサギの下顎骨の違い、食肉類の下顎骨と食性の関係、ニホンイタチとチョウセンイタチの見分け方、アカネズミとヒメネズミの見分け方、ペニスや陰茎骨、腸の長さや食性の関係、交通事故死する季節、と内容は多岐にわたっている。身近な食肉類7種の下顎骨を並べたページは、けっこう役に立つかも。できればアライグマが欲しかったところだが。▼残念ながらこの本は、すでに絶版になってしまった。書店で見たらすかさず買うこと。(和田岳)

破壊神「ザンゲの部屋」

壺：ウサギ



去年、ジュニアでのフェスの打ち上げの時です。テンとハクビシンとウサギがあつて、運悪くウサギ担当になっちゃいました。ウサギを剥くのは初めてだったけど、まあタヌキとかと変わらんだろうと思つて気楽に構えてたんです。しかし実際は毛がめっちゃ抜けるし、ふわふわで切りにくいし：やりにくい!!そして尾!短いくせにやたら毛がふわふわ多くて、どこを切つてんのか分からなくなつてとりあえず手当たり次第メス入れて、気付いたら尾の部分だけ切れて、本体(?)の方に残っちゃいました。そして、この前の■■■■団員の誕生日会ときもウサギを担当。二回目だし、さすがに同じ失敗は：と思つたんですが、慎重にやつたつもりが前回と同じ状況に陥つて：見かねた和田さんがバトンタッチしてくれましたが、ギリギリつながつてる状態はかなり危なかつた〜!!

ホネホネ団マメ知識：■■■■タヌキ=うえだぬき:発見者の名にちなんでこう呼ばれている。

式：タヌキ



これも去年。夏休みの自由研究にタヌキの骨格標本を出そうと思つて、和田さんに頼んで博物館のタヌキをかしてもらつてホネつた時の事。米ねえも、おつたかな。骨格標本用に折角、骨の折れてないタヌキを用意していただいたのに：肋骨、メスで切断するわ骨洗いの時力加減せんと折り返るわでそれはそれは悲惨でした。後で、折れた肋骨をボンドでひつつけていくのも、何本もおれてるのでパーツがなかなか合わずに苦労しました。

(破壊神こと ■■■■田)



■本団員の  
大阪自然史  
フェスティバル  
2004  
出展レポート



まよまきに見る一般人

フェスティバル当日の『なにわホネホネ団』ブース。親子連れにもなかなか人気だった

我々ホネホネ団は、2004年度大阪自然史フェスティバルに出展することになった。今回の展示の目標は、なにわホネホネ団の活動（存在？）を知ってもらおうということと、みなさんに骨と親しくなってもらおう！ということとで出展に向けて準備していきました。しかしホネっ子クイズの図案がまとまらなかつたり、団長が忙しくて不在だったりと少しあわあわ。  
でもなんとかフェス開催までにまとまったものになりました。お客さんもホネや毛皮にさわってもらったりして一安心。ホネホネ団のブースはフェス初日から5月5日までと長期展示で、いろんな動物の頭骨、片男波での活動報告&拾ったリクガメの骨、さわってもらおうシカの骨&タヌキの毛皮、ホネから動物を当ててもらおうホネっ子クイズ、タヌキとカラスの解体作業の手順を示したボードなどを展示しました。骨に興味をもってもらった方もたくさんいて、満足な結果でした。しかもなにわホネホネ団に入りたい！という方までいて、**団員**が入団。  
ということで、日没後にひっそりと活動していたホネホネ団を、みなさんにお披露目できたのでした。

**ホネホネ★リレーエッセイ** (前回) 猫耳のニッコウのこぼれ  
「どっつても欲しいアライグマ」  
アライグマが日本で最初に野生化したのは、一九六〇年代に愛知県のことだそう(外来種ハンドブック、地人書簡、二〇〇二年)。その後、北海道をはじめ日本各地でアライグマの野生化が確認され、つてことは知ってたけど、遠くでの出来事と思ってた。一九九〇年代に入ると、関西で一早く和歌山県で野生化が確認されたけど、大阪ではまだまだ他人事。と思つたら、二一世紀に入ると大阪でも岸和田から野生化アライグマがいるという話が聞こえてくるようになった。へえー、と思つたら、二〇〇三年には北摂や大和川以南の各地でアライグマ情報が。二〇〇四年には、淀川や貝塚のため池など、自分でもアライグマの足跡を見ることに。ボヤボヤしてたら、すでにアライグマは、大阪の各地にタヌキ並にいるらしい。ところが、そんなにいいらしいアライグマの死体が手に入らない…。タヌキやイタチほど車にひかれる動物ではないためか。その上、テンの死体を拾ってきてくれる人が、アライグマの死体は拾ってこなかったり。誰かアライグマの死体を拾ってきてくれ。

和田団員と強  
編集後記  
ここの所、ホッキョクグマ、オランウータン、マイルカと大物が続いています。骨にするのは虫士人達に任せ、もっぱら皮の処理。大きいと脂とりもなめしも大変。どこに広げて乾かすかが、そして大変。その点、キーンはかわいい



貝塚市ボタン池で見つけたアライグマの足跡  
(〇四年二月二日 団長撮影)

余談：博物館の情報センターの増築が完成してオープンしたのは二〇〇一年四月のこと。その時に作った大阪の哺乳類リストには、アライグマが入ってない。追加しなくちゃと思いつつ、はや三年。そろそろほんとは追加しなくちゃ！  
(和田 岳)

次号はやっと「ホネホネ団R(琉球)支部」特集です。  
いまや全国に散在する(らしい)ホネホネ仲間をもとめ、団長が突撃取材！  
爬虫類の骨取りの秘訣が今明かされる！乞う御期待！いつ出るか知らんけど！